

マイトーク MY TALK

第6号

発行：中央大学放送研究会OB会（会長／水上 虎馬雄）

住所：〒192-0351 東京都八王子市東中野742-1 中央大学放送研究会気付

発行日：平成12年1月1日



人の後押し人生哲学

師走とは思えない暖かさの12月9日、OB会会計監査役の河合昭次郎さん（11期）を代々木の事務所にお訪ねし、学生時代から社会人としての今日まで、数々のエピソードをご披露して戴きました。



学生時代を語る河合さん

◆ハードな剣道からソフトな放研へ

私が放送というものを意識したのは、小学五年の頃だったと思います。私は新宿生まれの新宿育ちで、花園神社の脇の小学校に通いましたが、その学校に放送部ができたのです。各学年から三名の部員を選ぶというので私も応募したのですが、最後の一人を誰にするかという段階で、なぜか同級の女の子に譲ってしまいました。その学校は、新宿区でテレビが一番最初に入ったような所で、放送に非常に熱心だったことを覚えています。

その後は、放送から遠ざかっていたのですが、大学に入って中庭に放研の会員募集の机が出ていたのが、当時の記憶がよみがえり、ついフラフラと手

続きをしたようなわけですが。高校が杉並付属とい男子校で、部活も剣道を三年間やっていました。かさんさん叩かれたし、こんどはソフトで色気のお部がいいなど内心で思っていたのでしようね。

しかし、放研は伝統的に先輩後輩の礼儀がきちととしていて、良い意味で上下関係の節度が守られている会でしたから、旧講堂の地下に在った狭い今では、私ども新入会員などは入り口の外にしか入れませんでしたよ。

◆白門祭にクレイジーキャッツ出演

私は昭和三十四年に商学部に入學しましたが、研では入会当初は文芸部で、その後アナウンス部転部しました。当時はあまり部の垣根がなくて、でもスク립トを書いたりサラ回しをしたりするのは。会室も狭かったし、練習する場所もなかったので、アナウンス部や劇団部が旧講堂の地下側の空地で練習したんです。地下には放研の他に八と詩吟の会室が並んでいて、お互いにギャンギン練習をやるものから、ジャズに尺八に詩吟入り交じって「音のキチガイ部落」などと言わしていましたよ。

あれは一年の白門祭の時でしたか、人気の出たクレイジーキャッツを放研で呼びました、諸君のお手伝いで、私も同期の福島くんや池田くん、宿のACBなどに通ってバンドの品定めをしたのですが、どうせ呼ぶなら面白いものを、といとでクレイジーに決まりました、バンドのトロン奏者の谷啓さんが中大の出身ということもあって、安いギャラで気持ち良く出演してくれたこと記憶しています。現在では大学祭にアイドルや

ントを引つ張り出すのが定番になっていますが、当時は目新しい出来事だったと思います。

◆安保を期に社会派作品が台頭

たしか二年の時でしたが、安保闘争で樺美智子さんが亡くなりました。お父さんは中大の教授でおられたので、我々にも大きなショックでした。当日は、会員の何人かがデンスケを担いで取材に行っており、私は会室に待機して、誰が帰ってきた帰ってこないをチェックし緊迫感あふれる状況でした。この出来事を契機として、放研の作品にも社会派の傾向が現れてきたと言えましょう。

その頃、都電の廃止に関連して録音構成を制作しました。交通混雑の改善のため都電がほとんど廃止され、新宿花園町から後楽園に抜ける13番線も廃止されることになったのをテーマに、広島テレビに行かれた川島先輩が中心になってデンスケを肩にインタビューして回りました。運転士さんの感想、利用者の意見、廃止後の都の施策などで録音構成を制作し、大学放送連盟のコンクールに作品として参加したと思います。私も制作班の一人として歩き回りましたが、運転士さんの今後の職場に対する不安など、厳しい社会の風に触れることができました。

◆マスコミ就職の夢を捨てる

そんな放研生活を謳歌していましたから、勉強なんかろくにしなかったです。日中は家でゴロゴロしていて、夕方になってから学校に出かけるものから、親父からは「おまえは夜学に入ったのか」と小言を食らう始末でした。当時、後輩諸君が「卒業できないリスト」を作ったら私がトップだったそ

うですよ。

その下馬評にもかかわらず昭和三十八年に目度く卒業するわけですが、さすがに就職は甘くありませんでした。仲間がみんなマスコミを狙っているから、私もなんとなく受けてみましたが一次審査でバタバタ落とされるのです。親父も見かねて、なにかコネがあったらしく「フジテレビに書類を出してみろ」と言われて提出すると、総務課なら採用するとの返事。私も血気盛んで、制作のような現場をやりたいと無理を言うと、それならば開局したての系列ローカル局の現場でどうかとのこと、せっかくの就職口でしたが、新宿で生まれ育ったからには地方にまで都落ちしたくないと断ってしまいました。今では、親の意見に従っておけばよかったかな、と思うことがありますよ。

◆広告会社から社会に船出

結局、就職したのは求人募集や案内広告を扱っている小さな広告会社でした。とりあえず放送には関係なかったのですが、すぐにテレビやラジオのコマシーナルを担当する部署ができることになり、私は自分が指名されるとばかり思っていたのです。ところが、蓋を開けて見ると社長の縁続きの人が異動することに決まっております、私は社会の現実には幻滅して、即刻、その広告会社を辞めてしまいました。

次に勤めたのは、富士製鉄の一次問屋という堅い会社でした。数年して仕事が慣れてきた頃、ある客先で欲しがっていた品薄な鉄材を、メーカーと話を付けて割高に流すことにしました、ところが、そのメーカーの製造予定が突然中止になり、急遽、同種の鋼材を調達して客先に納めるという大損を会社に

与えてしまったのです。上司からは、自分にもあるからと慰められましたが、私は責任を取会社を辞めることにしました。

ちょうど昭和四十七年頃、歌舞伎町で喫茶店を開こうかと場所まで見つけたのですが、だんだん、環境が悪くなってきたので計画を止め、たまに知り合いの食品関係の信用組合に再就職することになったのです。ここは規模が小さいため、融資の地や相続の問題など、なんでも一人でやらなくてはならず、ずいぶん勉強になりましたね、結局、一歳を過ぎて辞めるまで二十数年間お世話になりましたが、今の仕事にも当時から人間関係が貴重財産になっています。

◆自立して不動産業を始める

現在は、自分で不動産業をしておりますが、お客さんは日本蕎麦業界が主体になっていきます。そば屋さんは、繁華街の一等地に不動産をもつてお金があるわりに、概して経営には疎いのでバブルの頃にビルを建ててしまつて、今では口で汲々としている人も多くいます。また、息子に店をもたせたいとか、職人さんに暖簾分けをいとか、すべてに不動産の問題と融資の問題が絡みます。このような相談に応じて、長期ローンを組み替えたり、融資の手続きをしたり、場合によっては銀行の融資に必要な事業計画まで立ててやる、こんな所に信用組合で銀行の裏まで知っていたことが役に立っています。ですから、本業は不動産業なのですが、それ以上にコンサルタントとかポランティア活動と言うか、要するに何でものですね。

水上会長ご夫妻を囲んで

東京都 12期 砂岡茂明

水上会長は、中央大学の常任理事の重責を二期六年にわたって担ってこられました。七月に、後進に道を譲り勇退されました。この機会に奥様の内助の功も含めてご苦勞を労おうとOB会有志が相集い「ご夫妻を囲む会」を開催しました。

ときは、盛夏の真つ最中の七月三十一日の土曜日。ところは、駿河台記念館。この日は丁度六年前の同じ日、同じ曜日、同じ所で、水上会長の常任理事就任祝を行った奇しき縁の日でした。

暑い中、青森から福岡まで全国から有志や現役幹部が駆け付け、その数は、八十名近くに達しました。(水上会長の求心力の強さに改めて感嘆。)

司会は柳田美根子さん(13期)。清田義雄さん(1期)の挨拶と乾杯の発声で開幕。会長の奥様に前田絃子さん(13期)から花束の贈呈があり、会長から(短時間では喜びを表せないとはかりに)

やや長い御挨拶を戴き、奥様からもコメントを戴きました。(奥様の淑子様は、昭和二十八年の卒業で、放研一期生と同期になります。)

その後は、会長ご夫妻と思い出を語り合う人、久し振りの同期に会って談論風発(?)する人、沢山の輪ができ、あつという間の二時間。終了後、会長夫妻は、卒業一桁期の方々と神田に練りだし、深夜近くまでの延長戦。その他は、年代別(?)に分かれての二次会、三次会。三十七年振りの十期の同期会が多いに盛り上がったとか。

後日、水上会長からは、出席者全員に、ご丁寧な礼状を戴きました。(これからは、空いた時間を従前にも増して放研OB会のためにご尽力戴けるとの文面に接し、大変心強く思っています。)

ご健勝にて益々活躍されるよう祈念しております。



◆人の先に立つより後ろ押し

去年の暮れでしたが、あるおそば屋さんを聞くのにも千八百万円ばかり資金不足だと相談されたのです。住んでいるマンションもローンが組まれていて、もう融資の枠が無い状態でしたが、知り合いの銀行に行って事情を話したところ、なんとか融資が受けられ暮れの二十八日にオープンすることができ非常に感謝されましたよ。そんなわけで、銀行融資の時など、河合さんが間に入ってくれば安心だということで、本業よりもこの手の相談が多くなりましたね。

でマネージャーとして全力を尽くし、今もその仲間の絆は固く結ばれていると聞かされました。私は放研で目立ったことはしなかったけれど、先輩、後輩の方々、同期の連中との繋がりは貴重なもので、放研に入っていてよかったとつくづく思います。

考えてみれば、私は、リーダーになるより後方支援をする方が向いているのかもしれない。放研でも、進んでマイクを持つよりはミキサー室でサラ回しをしたり、制作のメンバーの一員として取材に歩いたりする方が多かったし、社会に出てからも、なんとなく人の背中を押してきたような気がします。

今でも、自分の知識や人脈がおそば屋さんの役に立てば嬉しいし、それ以上を求めるつもりはありません。でも最後は気楽に飲み誘えて、お互いに肩の凝

メモランダム

「私は表に出られない性質なんですよ」と河合さんは謙遜されます。しかし、そのお人柄を慕う、多くの人脈が自然にできています。人より先に出ず、人を裏切らず、人のために力を振るう。新宿に生まれ育った江戸っ子気質は、今後、さらに磨きがかかっていくことでしょう。

陰日なた 無けれど日陰 選び行き

らない付き合いができる友達が大事ですね。放研に築かれた友達の輪は、本当に大切にしたいと思っておりますよ。
(インタビュー 金野)

ゴルフ特集

東京都 14期 榎崎宏二



第二回ゴルフコンペ 内藤俊昭さん(三十一期) が優勝

平成十一年七月八日、晴天に恵まれた群馬県安中市の「下秋間カントリークラブ」で放研の第二回ゴルフコンペが開催されました。

「下秋間CC」は、毎年秋にプロゴルフシニアツアーの最終舞台となる名門コースで、河合昭次郎さん(11期)のご紹介で実現しました。

今回は、ゴルフ場差し向けの貸切りバスで東京からゴルフ場へ移動することにし、早朝六時に新宿西口集合、約二時間半をかけて群馬県安中市に向かいました。

車中では、第一回優勝の藤原さん(8期)から優勝杯の返還、第一回コンペ(益子CC)の様相を撮影したビデオの鑑賞などで徐々にコンペの雰囲気盛り上がったところで現地に着きました。地元か

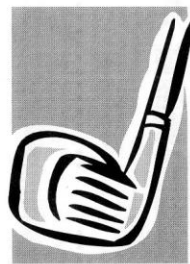
らの参加者をはじめ、マイカーで参加したメンバーも既に到着しており、全員が顔を揃えました。恒例の開会式(水上OB会会長、加賀美放研会長のご挨拶、桃川競技委員長のルール説明等)に続いて記念撮影の後、水上会長の始球式で熱戦がスタートしました。

梅雨の合間とはいえ、真夏を思わせる太陽をま



第2回(下秋間CC)

もに浴びてのラウンドになりましたが、唯一人の、タイヤ、怪我もなく、無事競技を終了しました。結果は、地元安中在住の内藤俊昭さん(31期)の地の利を生かして?優勝。親父の世代に囲まれて活躍は、若い世代の台頭を予感させました。バスの中に集合して表彰式を行い、バス組、マーカー組に別れて帰途に着きました。バス組は、東京まで三時間、コンペを振り返ってお酒に懇談におおいに盛り上がりました。余韻は新宿に着いても覚めやらず、一部メンバーは、スツクに繰り出している19番ホールで仕上げとなりました。



ゴルフ会が納会を開催

東京都 12期 砂岡茂明



1999年も残り少なくなった十二月十八日、銀座でゴルフ会の納会が開催されました。第一回(第三回までの各自のショットが記録ビデオで再現され、格好の話題に花が咲きました。また、会場のカーペット上でパター大会が開催され、武居さん(4期)があわやホールインワンのピン横一センチに付け、見事優勝し、有終の美を飾りました。



第3回(浦和GC)

第三回ゴルフコンペ

奥野徳男さん(八期)

が優勝

平成十一年十一月三日、文化の日のジンクス(晴の特異日)どおり、晴天に恵まれた埼玉県の名門「浦和ゴルフクラブ」で放研の第三回ゴルフコンペが開催されました。

気候は申し分なく、暑くもなし、寒くもなし。パトナーは、気心知れた放研OB会員。大会も三回を数え、参加者相互の親しみも増し、とても和やかに楽しい大会になりました。

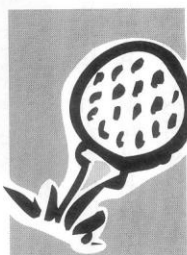
恒例になった水上会長のご挨拶、桃川競技委員長のルール説明、前回優勝の内藤さん(13期)から優勝杯の返還、記念撮影、会長の始球式で大会が始まりました。

直前までご参加の予定だった加賀美教授(放研会長)が急用で欠席となったのが残念といえは残念でした。

参加者のゴルフレベルも回を重ねる毎にアップし、ハイレベルでの戦いとなりましたが、結果は、八期の奥野徳男さんが激戦を制し優勝杯を手にしました。奥野さんは、ベスグロも獲得し、完璧な内容での優勝でした。

プレー終了後、表彰式、懇親会が開かれ、参加者が持ちよった賞品、賞金が水上会長から全員に贈呈され、ムードがおおいに盛り上がりました。

コースに出るのが初めてだった斎藤進さん(5期)の、「ゴルフとはこんなに難しく、こんなに楽しいもの：」との一言が印象的でした。



宿のスナックを頼み込んで開けてもらい、クラブをマイクに持ち替えたハンデもペナルティも無いカラオケ合戦。放研で鍛えた喉は衰えを見せず、明治、大正、昭和、平成にわたる幅広いレパートリーを歌い綴り終電時間も忘れるほど。余力を残しながら、来年のコンペでの再会を約束して散会になりました。



ゴルフも楽し、納会も楽し

OB同期会旅行

山梨県下部温泉で十二期・十四期合同同期会開催

山梨県 14期 小田切邦彦

合同同期会が、山はあっても山無し（梨）県、海は無くても貝（甲斐）の国と呼ばれる山梨県で晩秋の十月三十日に開催されました。実は十四期にとつ



下部温泉の夜は更けて

ては卒業以来正式にこれが第一回目の歴史に残る懇親旅行です。加えて三十回以上の伝統がある十二期（札幌から北上さん、大阪から鈴木さん、名古屋から高橋さんと広域の参加は羨ましい限り）と合同で、さらには水上会長や十一期の先輩も参加しての楽しい懇親会となり、すばらしい一夜を共にしました。

ところは、戦国の武将、武田信玄ゆかりの下部温泉。色っぽくなくてひなびた（十四期の女性のような？）静かな温泉場で、夜の更けるのも忘れてのなつかしい放談談義に花が咲きました。三十年ぶりに真実がわかった出来事も数多く、改めて時の経過を感じました。

翌日、十四期は、身延山を参拝し、来年は京都で開催できたら良いねと約束して解散しました。会長、十一期・十二期の一行はミレリーの絵画とワインを堪能したようです。

参加者は、特別参加の水上会長、十一期二名、十二期十名、十四期十一名の合計二十四名でした。



同期を訪ねて鹿児島の旅

横浜市 15期 齋藤剛



指宿の豪遊を終えて

毎年小旅行を楽しんでいる十五期が、平成十一年十月九日、MBS（南日本放送）の小澤の達ちゃんが行ってくださる鹿児島へ八名（淑女二名）にて三日間の旅へ行ってきました。今回の幹事は言いだしっぺの大村氏にお願いし（なんか心配かな。失礼）一空港鹿島へ飛びました。

空港では小澤氏と、すてきな奥様に迎えて頂き一同感激。早速用意してくれたレンタカー（ワンボックス車）にて、快晴の空港を後にし最初の目的地・



桜島にも渡り満足

指宿に出発。途中昼食を取る事となり、寿司ねたの大きく旨い店があるとの事で即決定。特定をオーダー、待つ事一時間半、腹へった、でも大きくて旨かった。これって「鹿児島時間」と小澤氏に確認したが否定、早々に困らせてしまいました。

気を取り直し、一路指宿に向かい楽しみにしていた海辺での砂むし風呂。写真で見えていた通りのスタイルで熱さを我慢し三十分、体の毒素を抜き砂の中に残してきました（後の方ゴメン）。全員すっきりしたところで潮風を求めて薩摩半島最南端の霧島屋

久国立公園長崎鼻へ、そこで湾越しに見える開聞岳、そして頂上付近より落ちてゆく夕日に感動し一日目の旅を終え、宿泊先である指宿温泉は白水館に投宿。食べて飲んで、また部屋での飲み直し、昔を懐しみ、今を語り酔いにまかせて楽しく賑やかに遅く迄の一日目の夜。翌日知覧町にて知覧特攻平和会館を見学。本土最南端の特攻基地、国を思い、父母を思い、永遠の平和を願いながら勇士達は…。一〇三六柱の霊が安らかならんことを祈念して桜島へ。

カーフェリーにて渡り、有村溶岩展望所より世界的活火山桜島の迫力と錦江湾を望み感嘆して市内に戻る。江戸時代一六五八年造営、桜島を築山に、錦江湾を池に見立てた雄大な借景を持つ十九代島津光久の別邸「仙巖園」にてしばしの休憩（園内の永い歴史を物語る史跡については別の機会に）。市内の高台よりの夜景を後に、今回の楽しみでもあった小澤氏友人の留守宅を借用しての宴会へ突入。小澤氏奥様に用意して頂いた手料理、そして酒、感謝して遠慮なく頂く。皆それぞれ気楽なスタイル（パジャマもOK）で語る夕べ。会社の事、家族の事、互いにもう年？で今後の事など楽しく又切実に深夜まで、少し眠くなってきた様なので又明朝。三日目の朝パンとコーヒー、デザート、すがすがしい朝。

一宿の借用に感謝して今回最後のルートへ出発。えびの高原そして高千穂牧場にて大勢の家族連の中手作りのパン、牛乳、アイスクリーム等に舌つづみを打って旅の余韻にひたり、霧島神宮にて三日間の旅の感謝と全員無事帰着を祈り空港へ。

今回は地元小澤氏夫妻にはほんとうにお世話になりました事、心よりお礼申し上げます。三日間天気に恵まれ楽しい旅でした。折々の話題は別の機会に。

セピアのアルバム

同期会のはじまりの頃

12期 砂岡茂明

十二期生の同期会は、ほとんど毎年開催しており、もう四十回近くになります。会には、これといった約束ごとはありませんが、周年行事の行われる年は、首都圏在住者も上京者と一緒に都内に泊まることにしています。

この写真は、十五周年行事（九段会館）が行われた昭和四十二年（1967年）に、駿河台ホテルに泊まった翌朝撮影したものです。駿河台ホテルは、新人生歓迎コンパ、卒業生追出しコンパなどで酔いつぶれた懐かしい場所ということで選定しました。

サラリーマン4年目のまだ若々しい頃です。



左から若尾、南、安藤、米山、北上、河口、高橋、近藤、小嶺、及川、志村、齋藤、徳原、内田
撮影は砂岡です。

ホワイトボード

「マイトーク原稿募集」

OB会機関誌「マイトーク」も、今回で第六号になります。巻頭インタビューや情報コラム欄は編集委員が制作していますが、OBアクティビティやセピアのアルバムなど、会員の皆さんから寄せられる原稿や情報により構成されるページが数多くあります。そこで、改めて「マイトーク」の各コーナーに対する原稿や情報を募集しますので、ご協力をお願いします。

◇OBアクティビティ◇

同期会や親睦会の楽しい活動を掲載します。旅行や飲み会などの顛末を八百字程度にまとめ、写真を一、二枚同封してお送り下さい。

◇セピアのアルバム◇

大学祭（白門祭）、合宿、練習風景、各種コンパなど、皆さんの会活動の懐かしい写真を、二百字程度の思い出を添えてお送り下さい。

◇がんばってま〜す◇

地元で元気にやっているよ、というアピールを全国津々浦々からお寄せ下さい、ご自身の写真と、二百字程度の近況報告をお待ちしています。

◇長信・短信+風のうわさ◇

仕事、趣味、心境、仲間など、なんでも結構ですが現在の状況をハガキでお知らせ下さい。機関誌の情報提供欄としてご活用をお願いします。

「マイトーク」は原則として年二回、一月と七月に発行する予定です。できるだけホットな情報をお届けするように努力しておりますが、原稿のタイミングが合わない場合でも次号で掲載させて頂きますので奮ってお寄せ下さい。

〈原稿宛先〉

〒一四六―〇〇八五

東京都大田区久が原一―四―十四 砂岡茂明

「OB会費納入のお願い」

前号でもお願いしましたが、再度、OB会費の納入をお願い致します。会費は年間二千円とし三ヶ年分の六千円を一括して納入することが原則になっています。対象期間はOB会が開催される年度を一年目とし、次のOB会の前年度までの三ヶ年が一期です。今期で言えば、平成十年度から十二年度までということになります。

今回のマイトークに同封して、再度、専用のOB会振込用紙をお送りしておりますので、お早めに振り込みをお願いします。

「OB会ホームページ」

創立四十五周年記念事業の一環として創設されたOB会ホームページは、現在、下記のアドレスにセットされ閲覧が可能になっています。

このホームページから、放研現役や中央大学のホームページにもリンクされていますので、ぜひ一度ご覧下さい。

●OB会ホームページ

<http://www.g1box.co.jp/chk>



皆さんからのご感想、ご希望をお待ちしております。また、幹事会では、インターネットとEメール操作に関する「超簡単パソコン教室」の開催を企画していますのでご期待下さい。

■訃報■

●十二期の柏木翼さんは、平成八年十一月永眠されました。

●八期の植原恒彦さんは、平成十年十月永眠されました。

●七期の磯野修さんは、平成十一年十一月永眠されました。

御冥福をお祈り申し上げます。

(OB会より、お香典をお供えました。)

編集後記

世界的にコンピュータの2000年問題が声高に叫ばれ、我が国でも首相自らCMに登場して「備えあれば憂いなし」を強調したライフライン危機も、一夜明ければハイテク文明の虚像として消え去った感じがします。年末年始の海外旅行を控えた人、年の瀬を職場で過ごした人、ミネラルウォーターを買い占めた人、虎の子のパソコンに恐る恐る電源を入れた人など、それぞれのY2Kが展開されたのではないのでしょうか。

いづれにしろ、目出度く新ミレニアムを迎え、つつがなく「マイトーク」第六号をお届けできることは、日頃からのOB会会員各位のご助力とお陰と感謝致しております。

今回号は、ゴルフコンペを見開きで特集し、多くの方々のご参加を募るとともに、OB旅行の楽しい様子をご紹介して、同期会の活発化を呼びかけてみました。そのため、レギュラーの現役のページを休ませて戴きましたことをご了承下さい。(幹事一同)